

田中次郎の一日

加賀谷理太

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

日本一顔がキモい男の田中次郎の物語

ドラえものの『コチヨコチヨ手ぶくろ』に出てくる顔が変な学生のキャラがモチーフで名前は僕がつけました。

2020年はコロナなので、年をずらしました。

【登場人物】

・田中次郎（たなかじろう）

生年月日：2010年9月5日

出身地：東京都練馬区

血液型：B型

この物語の主人公で、日本一顔がキモい男。

・古垣結衣（ふるがきゆい）

生年月日：2010年6月20日

出身地：沖縄県那覇市（小学校から東京都練馬区在住）

血液型：O型

田中が好きな同級生で、女優もしている。

・エミリー・ローズ

生年月日：1995年12月24日

出身地：ハワイ

血液型：AB型

ハワイのモデルでグラビアアイドルのディア・リゾンにソックリ

目次

結衣が誘拐される	1
ジャイアンと友達になる	4
田中、CMに出る	7
ハワイ旅行	10

結衣が誘拐される

・2024年5月5日(こどもの日)

田中「結衣ちゃん、俺と、付き合ってくれ！」

結衣「いいわよ！」

田中の妄想だった。

田中「こんな風になるといいな！暇だからテレビ観よう！」

ピッ！

田中はテレビをつけた。

アナウンサー「速報です！女優の古垣結衣さんが、何者かに、誘拐されました。」

田中「ウソ、結衣ちゃん誘拐されたの!?助けに行かなくちゃ！」

でも、結衣ちゃん、今、どこにいるんだろう？」

プルルルル♪

田中「俺のスマホが鳴っている。結衣ちゃんから電話だ！」

田中は電話に出た。

田中「もしもし、結衣ちゃん！」

結衣「田中君、助けてー！早く家に帰りたいよ!!!」

田中「今、どこにいるの？」

結衣「見本テレビの駐車場にいるわ。」

田中「今、助けに行くからね！」

結衣「ありがとう、田中君！」

田中は電話を切った。

田中「よし、助けに行くぞ！」

・見本テレビの駐車場

田中「結衣ちゃんを解放しろ!!!」

犯人「お前の顔、キモ過ぎ！」

田中「何だと!!!」

田中は思いつきり、犯人の頭にゲンコツした。

犯人は気絶した。

結衣「田中君、助けに来てくれてありがとう！」

田中「いや、俺は、当たり前のことをしてただけだよ結衣ちゃん！」
結衣「私、将来、田中君と結婚したいな！」

田中「今、何て言ったの？」

結衣「『将来、田中君と結婚したいな！』って言ったの。」

田中「本当に？」

結衣「本当よ！」

田中「よっしゃー！！！」

警察「あつ、あそこにいるのは、犯人だな!!!人相悪過ぎだ!!!犯人確保!!!」

警察官は田中に手錠をかけた。

田中「違うよ！俺は犯人じゃない！結衣ちゃんを拐ったのは、こいつです！」

警察「あつ、すみません！犯人ぽい顔でしたので！」

田中「俺、整形しようかな？」

結衣「田中君、ドンマイ！」

田中と一緒に帰った。

・田中の家

田中「ただいま！」

田中の兄「次郎、こんな遅くまで、どこ行ってたんだ？」

田中「俺の同級生の、古垣結衣ちゃんが誘拐されたから、助けに行つてたんだよ！」

田中の兄「ふーん、それは偉いな！」

田中「結衣

結衣ちゃんに『将来、田中君と結婚したいな！』って言われちゃった！」

田中の兄「お前は、顔がキモ過ぎるんだから、絶対、結婚なんか無理だぞ！」

田中「うるせーよ、兄貴!!!」

・2日後

結衣「田中君！」

田中「どうしたの、結衣ちゃん？」

結衣「一昨日は本当に助けに来てくれてありがとう！」

田中「当たり前のことをしただけだって！」

結衣「でも、一昨日『将来、田中君と結婚したいな！』って勢いで言っちゃったけど、やっぱり、田中君の顔、気持ち悪いわ！だから、結婚は無理だわ！それじゃあ！」

結衣は去って行った。

田中「結衣ちゃんのバカヤローー!!!」

田中は結衣のことが少し嫌いになった。

ジャイアンと友達になる

・2024年6月のとある日曜日

ジャイアン「俺は ジャイアン ガキ大将♪」

ジャイアンは気持ちよさそうに、歌を歌いながら歩いている。

田中「あっ、あいつは、この前、俺の顔を見て笑った奴だ！」

田中はジャイアンがいる所まで行った。

田中「よお、また会ったな音痴ゴリラ！」

ジャイアン「うわー、この前の人だー!!!」

田中「あの時は、よくも俺の顔を見て笑ってくれたな!!!思い出しただけで頭にくるから、殴らせろ!!!」

ジャイアン「違いますよ!あの時は、あなたの顔を見て笑ったわけじゃないんですよ!」

田中「嘘つけ!!!」

ジャイアン「本当ですよ!俺の同級生である、野比のび太っていう奴が、未来から来た猫型ロボットからひみつ道具を借りて、俺を離れた所からくすぐってきて、俺が笑った時に、あなたがたまたまいて、あなたが勘違いしただけですよ!」

田中「意味が分からん!」

ジャイアン「とにかく、のび太という奴の家まで案内するので、ついてきてください。」

田中「分かった!ところでお前、名前何ていうんだ?」

ジャイアン「剛田武です!みんなからジャイアンと呼ばれてます!」

田中「俺は、田中次郎だ!」

田中はジャイアンについていった。

・のび太の家

ピンポン♪

のび太のママ「はーい!」

ジャイアン「剛田武です!のび太君いますか?」

のび太のママ「のび太なら、しずかさんの家に遊びに行ってるわ!」

ジャイアン「のび太君の部屋で、帰ってくるの待っていいですか？」
のび太のママ「もちろん、いいですよ！今、開けますからね！」
のび太のママはドアを開けた。

のび太のママ「武さん、いらっしやい！ところで、隣のお方はどなた？」

ジャイアン「のび太君に会いたがってる田中次郎さんです！」

田中「練馬南中学2年の田中です！よろしくお願いします！」

のび太のママ「あら、そうなの！さあ、二人ともあがって！」

田中・ジャイアン「お邪魔します！」

田中とジャイアンはのび太の部屋に向かった。

のび太のママ「何なの、あの顔が変な人は!!!」

・のび太の部屋

ジャイアン「失礼するぞ！」

ドラえもん「ジャイアン、いらっしやい！ところで、その人は誰？」

ジャイアン「のび太に会いたがってる田中次郎さんだ！」

田中「練馬南中学2年の田中だ！よろしくな、青狸！」

ドラえもん「僕は、狸じゃない!!!」

ジャイアン「ドラえもん、離れた所から相手をくすぐれる道具出してくれ！」

ドラえもん「もしかして、こちよこちよ手袋のこと？」

ジャイアン「早く、それを出せ！」

ドラえもん「どうして？」

ジャイアン「いいから！」

ドラえもん「じゃあ、分かった！こちよこちよ手袋！」

ジャイアン「それを使って、田中さんをくすぐってくれ！」

ドラえもん「分かった！」

ドラえもんはこちよこちよ手袋をはめて、田中を離れた所からくすぐった。

田中「ぐはははははっ!!!誰も俺をくすぐってないのに、体がくすぐったいのは何故だ？」

ドラえもん「この手袋をはめると、5メートルぐらい離れた所から

でも、相手をくすぐることができるとだ。」

ジャイアン「田中さん、分かりましたよね？俺が笑ってたのは、あなたの顔を見て笑ったわけではなく、のび太って奴が、こちよこちよ手袋を使って、俺をくすぐってきたことを！」

田中「そうだったのか！ジャイアン、誤解して殴って悪かったな！」

ジャイアン「分かればいいんですよ！」

のび太「ただいま！ドラえもん、しずかちゃんが作ってくれたクツキー食べる？」

ジャイアン「田中さん、あいつがのび太です！」

のび太「何で、ジャイアンがいるの？」

田中「やい、貴様がジャイアンくすぐったせいで悪くねえのに、ジャイアン殴っちやっただじゃねえか!!!」

のび太「えっ、何の事？」

田中「とぼけるな!!!」

田中はのび太を思う存分殴った。

のび太「うわーん!!!」

ドラえもん「僕のドラ焼きあげるから、泣かないで！」

ジャイアン「じゃあな！」

田中とジャイアンはのび太の家を後にした。

・空き地

田中「なあ、ジャイアン！」

ジャイアン「何ですか、田中さん？」

田中「お前と友達になりてえんだ！」

ジャイアン「こんな俺でもいいんですか？」

田中「いいんだよ！」

ジャイアン「じゃあ、よろしくお願いします！」

田中「よっしやーん!!!」

田中は、ジャイアンと友達になった。

田中は、野球にもたまに誘われ、活躍したとき。

田中、CMに出る

・2025年2月のとある日曜日

ピンポーン♪

田中「誰ですか？」

ジャイアン「田中さん、ジャイアンです！」

田中「よお、ジャイアン！何で、俺の家まで来たんだ？」

ジャイアン「スネ夫が、田中さんに会いたいわって。」

田中「何で俺に会いたいわんだ？」

ジャイアン「とにかく、スネ夫の家まで案内します。」

田中はジャイアンについていった。

・スネ夫の家

スネ夫「田中さん、よく来たね。」

ジャイアン「じゃあ、俺は店番があるからこれで失礼します。」

田中「ジャイアンまたな！」

ジャイアンは自分の家に帰った。

田中「ところでスネ夫、俺に何の用だ？」

スネ夫「田中さん、実は僕のパパは、安須クリニツクの安須院長と

友達なんだ！安須院長に、田中さんの写真見せたら・・・」

田中「俺の許可なく、俺の写真を他の人に見せるな!!!」

スネ夫「まあ、話を最後まで聞いて。安須院長が『田中君に私のC

M出してもらいたい。』って言ってました。」

田中「何で俺が安須クリニツクのCMに出なくちゃいけないんだ？」

スネ夫「まず、田中さんの顔を映して、『こんな顔の人でも安須で手術すれば、俳優の北村拓哉さんきたむらたたくやみたいな顔になりますよ！』って後から安須院長の声を入れるCMを作りたいらしいです。」

田中「断る!!!」

スネ夫「でも、安須院長がCMに出てくれたら、蘭蜜さんらんみつと友達・・・」

田中「えっ!?安須院長、蘭蜜さんと友達なのか！俺、蘭蜜さんの大ファンなんだよ！蘭蜜さんが出てる雑誌は毎回買うほどなんだよ！」

スネ夫「いや、あの・・・」

田中「蘭蜜さんに会えるのなら俺CM出るぜ！」

スネ夫「じゃあ、来週の日曜日の午後2時に、僕の家で写真撮るか来てくださいね！」

田中は安須クリニツクのCMに出ることになった。

・田中の家

田中「ただいま！」

田中の父「次郎、今までどこに行ってたんだ？」

田中「スネ夫の家に行ってた。」

田中の父「何しに行ってたんだ？」

田中「スネ夫が俺に、安須クリニツクのCMに出てほしくて、俺もCMに出ることにしたんだ。」

田中の父「何でそんなCMのオフア―引き受けたんだ？」

田中「蘭蜜さんに会えるからだぜ！」

田中の父「えっ!?蘭蜜ちゃん、俺も好きなんだ!次郎、蘭蜜ちゃんのサイン貰ってこいよ!」

田中「分かったよ、親父!」

・一週間後の日曜日

田中「よお、スネ夫!」

スネ夫「田中さん、こんにちは!」

安須「やあ、君が田中君かね？」

田中「はい、そうです!」

安須「やつぱり、写真で見るより、生で見る方がインパクトあるね!」

田中「ほめてんのか、ほめてないのか分からねえ!」

安須「じゃあ、早速、写真撮影と行こうか。」

カメラマン「じゃあ、撮りますよ!3、2、1」

カシャッ!

カメラマン「はい、お疲れ様でした!」

田中「えっ!?もう終わり?いつから、CM流れますか?」

安須「来月の1日から。」

田中「安須院長、ところで、蘭蜜さんはどこにいるの？」

安須「蘭蜜さんはいないよ！」

田中「でも、安須院長は、蘭蜜さんと友達で、蘭蜜さんに会わせてくれる約束でしょ？」

安須「私は、蘭蜜さんとは友達ではございません！でも、蘭蜜さんの友達の女芸人の、大損おわざんちなみさんとは友達です。」

スネ夫「『蘭蜜さんと友達で安須院長とも友達のおわざん大損ちなみさんに会わせてあげる。』って言うおうと思ったのに、田中さん勘違いしちゃって。」

田中「スネ夫の話、最後まで聞くんだった。」

安須「大損さん、今いるけど呼んであげましょうか？」

田中「別にいいです！俺、帰ります!!!」

田中は家に帰った。

・田中の家

田中「ただいま・・・」

田中の父「次郎、どうしたんだよ？元気ねえぞ！」

田中「蘭蜜さんに会えると思ったら、大損ちなみだった。」

田中の父「そうか、残念だったな！でも、蘭蜜ちゃんは一昨年結婚したから、独身のおわざん大損の方がいいじゃねえか？」

田中「それでも俺は、蘭蜜さんの方が好きだ！」

3月1日から田中が出演している安須クリニツクのCMが流れるようになった。

安須「こんな顔の人でも安須で手術すれば、俳優の北村拓哉さんみたいな顔になりますよ。イエス、安須クリニツク！」

女性の声「安須クリニツク」

田中はこのCMが流れる度に、テレビを消したり、チャンネルを変えたりしたとき。

ハワイ旅行

・2025年8月1日（夏休み）

田中の母「ただいま！」

田中「母ちゃん、ニヤニヤなんかして、どうしたんだ？」

田中の母「実は、商店街の福引きで、ハワイ旅行が当たったの！」

田中「スゲーな、母ちゃん！」

田中の兄「ただいま！」

田中の母「一郎（田中の兄）、福引きでハワイ旅行が当たったわよ！」

田中の兄「マジか、母ちゃんスゲー!!!」

田中の母「山の日（8月11日）に1泊2日でハワイ行こうね！」

・夜

田中の父「ただいま！」

田中の母「あなた、今日、商店街の福引きでハワイ旅行が当たったの！」

田中の父「えっ!?!子供の時から憧れてたハワイに行けるのか？」

田中の母「山の日に2泊3日で行かない？」

田中の父「もちろんいいぞ！明日、家族全員のパスポート探しておいてくれ！」

田中の母「あなた、今、思ったけど。」

田中の父「何を思ったんだ？」

田中の母「ハワイって、英語よね！私、英語喋れないけど・・・」

田中の父「俺も簡単な英語しかできねえぞ！一郎、お前は英語喋れるか？」

田中の兄「俺も英語は苦手だ。次郎は、確か英語得意だっけ？」

田中「兄貴、適当なこと言うなよ！俺も英語苦手だよ。」

田中の母「じゃあ、どうやって現地人と会話すればいいのよ！」

田中の父「うーん・・・」

田中「そうだ！青狸からひみつ道具貰ってきて、なんとかかしてやるぜ！」

田中の母「次郎、言ってる意味分かんないけど・・・」

田中「とりあえず明日、のび太という奴の家に行ってくるぜ！」
・のび太の家

ドラえもん「田中さん、いらつしやい！」

田中「よお、青狸！」

ドラえもん「僕は、狸じゃない!!」

田中「悪かった！なあ、外国人と会話ができる道具貸してくれよ！」

ドラえもん「分かった！翻訳こんにやく！」

田中「何だ、そのこんにやくは？」

ドラえもん「このこんにやくを食べると、日本語で外国人と会話でき、しかも外国語が日本語に翻訳されるんだ！」

田中「それを4つくれないか？」

ドラえもん「いいよ！」

ドラえもんは田中に翻訳こんにやくを4つあげた。

田中「サンキュー、青狸！」

ドラえもん「だから、僕は、狸じゃない!!!」

・2025年8月11日（山の日）

田中一家はハワイに到着した。

田中「ここがハワイか！」

田中の母「まず今日泊まるホテルに行きましょう。」

田中一家はホテルに向かった。

・ホテル

田中の兄「うわー、広いぜ！」

田中の母「ベットもフカフカだわ！」

田中の兄「次郎、海で遊ぼうぜ！」

田中「もちろんいいぞ！」

田中の父「じゃあ、暗くなる前に帰ってくるんだぞ！」

・海

田中の兄「次郎、海水浴しようぜ！」

田中「分かった！ん？」

女性「うえーん!!!」

田中は若い女性がビーチで泣いてるのを発見した。

田中「若いお姉さんが泣いてる。」

田中の兄「あの人、グラビアアイドルのディア・リゾンにソツクリじゃん！」

田中「そんなことはいいいだよ兄貴！ちよつと声かけよう！」

田中の兄「おい、次郎待てよ！」

田中「あの一、どうされたんですか？」

しかし、女性は英語で話してるので田中は何言ってるか分からなかった。

田中「英語分からねえよ！あつ、青狸から貰った翻訳こんにやく食べるか！」

田中は、翻訳こんにやくを食べた。

田中の兄「次郎、俺にもくれ！」

田中の兄も翻訳こんにやくを食べた。

田中「あの一、どうされたんですか？」

女性「実は昨日、私の彼氏が交通事故で亡くなったんです。」

田中の兄「えー、可哀想に。」

女性「私は、彼氏が大好きだった。だから、亡くなったのが悲しくて、昨日から涙が止まらないの。」

田中「でも、あなたは綺麗だから、運命の人もすぐ見つかると思いますよ！」

女性「ありがとうございます！あなたがそう言ってくれたおかげで少し元気になりました。私は、エミリー・ローズ。ハワイでモデルの仕事をしています。」

田中「俺は、中学生の田中次郎です！」

田中の兄「俺は、高校生の田中一郎です！」

エミリー「あら、二人とも若いのね！私は、今年で30歳だよ。」

田中「えっ!?若い！」

田中の兄「ちなみに付き合うとしたら、俺と次郎だったら、もちろん俺ですよね？」

エミリー「いや、次郎の方がいいわ！」

田中の兄「えっ!?こんな酷い顔してるのにな？」

田中「兄貴、酷いぞ!!!」

エミリー「だって、次郎は心がイケメンなんだもん!」

田中「エミリーさん、ありがとうございます!」

田中の兄「クソー!」!!!イケメンの俺が次郎なんかには負けるなんて!!!」

エミリー「それじゃあね、次郎、一郎!!!」

田中「バイバイ、エミリーさん!」

・ホテル

田中・田中の兄「ただいま!」

田中の母「お帰りなさい!」

田中「母ちゃん、俺、20歳になったらエミリー・ローズさんと結婚する!」

田中の母「エミリー・ローズさんって誰だい?」

田中の兄「今日、ビーチで泣いてたモデルの人で、ディア・リゾンにソックリな人だった。」

田中の父「えっ!?ディア・リゾンにソックリだって!俺も会いたかったな!」

田中の母「あなたには、私がいるでしょ!」

田中の父「あつ、そうだった!」

田中「エミリーさんにもう一回会いたいな!」

・翌日

田中一家はホテルのレストランにいる。

田中の母「このロコモコ美味しいわね!次郎もそう思うでしょ?」

田中はエミリーのことで頭がいっぱいだった。

田中の母「次郎、聞いているの?」

田中「えっ、何の話?」

田中の母「駄目だ!聞いてない。」

すると、エミリーがホテルのレストランにやって来た。

田中「あつ、エミリーさん!」

エミリー「ウソ!?次郎と一郎にまた会えるなんて夢にも思わなかったよ!」

田中の父「確かにディア・リゾンにソツクリだ！」

エミリー「次郎、アーンしてあげようか？」

田中「えっ!?!いいの?」

エミリー「じゃあ、口開けて！」

田中は口を開けた。

エミリー「はい、アーン！」

田中はエミリーにアーンしてもらって、ロコモコを食べた。

田中「うーん、最高!!!」

田中の父「クソー、うらやましいな次郎！」

田中「なあ、エミリーさんも入れて記念撮影しない？」

田中の兄「それはいいな！でも、誰が写真を撮る係をやるんだ？」

田中の母「じゃあ、私が撮るわ！」

田中「じゃあ、母ちゃんよろしく！」

田中の母はスマホのカメラを起動した。

田中の母「はい、チーズ」

カシャッ！

エミリー「よく撮れてるわね！」

田中「ねえ、エミリーさん。俺、20歳になったらエミリーさんと結婚したいんだ。」

エミリー「私も次郎と結婚したいわ。」

田中「えっ!?!本当？」

エミリー「本当よ！」

田中「よっしゃー!!!」

田中の父「良かったな、次郎！」

田中の兄「クソー、俺もエミリーさんと結婚したいぜ！」

田中「俺が20歳になるのを待ってくださいね、エミリーさん！」

エミリー「もちろん！」

・翌日（ホノルル空港）

田中「エミリーさん元気でね！」

エミリー「うん！」

田中は興奮したまま日本へ帰国した。

こうして田中の中学生最後の夏休みは終わった。